

サントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクト について

～ 生物多様性に富んだ豊かな土壌が様々な恵みを生み出す“水”にこだわった森づくり～

1 背景

丹沢大山では、神奈川県、企業、団体等多様な主体が丹沢大山自然再生委員会（以下「委員会」）を組織し、自然再生に取り組んでいます。

全国で サントリー「天然水の森」の取組を展開しているサントリーグループは、神奈川県内に工場を有することから、委員会に参加し、丹沢山地の水源かん養機能等の保全再生のため、神奈川県や関係者と、企業としてどのような貢献ができるか検討を重ねてまいりました。



水源涵養林としての高い機能を持った森林
生物多様性に富んだ森林
洪水・土砂災害などに強い森林
CO2の吸収力の高い森林
豊かな自然と触れ合える森林

図1 天然水の森とは

2 プロジェクトの概要

サントリーホールディングス(株)は、神奈川県と協働し、今後100年を見据えて多様な生き物と豊かな土が様々な恵みを生み出す森づくりをめざします。

(1) 対象区域

プロジェクトの対象区域は、相模川水系中津川上流域にあたる丹沢県有林約577haとします。

この区域は、尾根や溪流などの地形の変化に富み、明治時代後半に植えられた樹齢100年を超える人工林や自然林が分布していますが、シカの過度な採食による植生劣化等が見られます。

このため、県によって丹沢大山自然再生計画に基づく森林整備、シカ管理、森林環境調査など多くの事業やモニタリングが行われています。



図2 対象区域



源流部の溪流景観



人工林と自然林が接する尾根



樹齢100年を超える人工林

(2) 取組の内容

県の森林政策や県営林経営計画と整合を図り、県の事業や調査研究と協調連携して、以下のプロジェクトに取り組みます。

実施にあたっては、委員会の助言を得ながら、順応的管理の考え方にに基づき、必要な検証・見直しを行っていきます。

ア 県と連携した土と水に関する研究

県の調査研究を補完して、次のようなテーマで当社の研究機能を発揮します。

- ・ 土壌や基岩が植生や地下水に及ぼす影響について
- ・ 表層土壌における生物的な浄化作用について など

イ 森林の保全・再生と活用手法の検討と実践

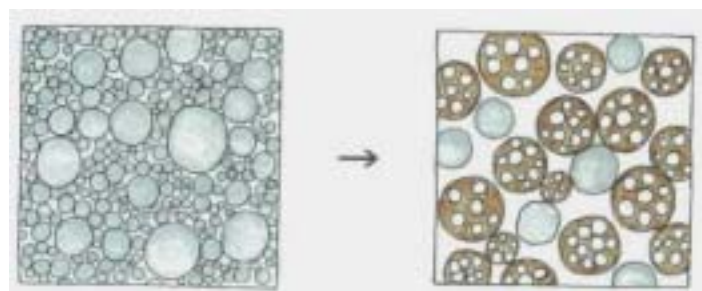
県と協議しながら、次のような取組を検討・実践します。

- ・ 高標高域の人工林（巨木林）の取扱い
- ・ 実生や苗木を守るシカ柵の設置
- ・ 必要に応じた土留め工の設置 など

ウ 水と土と生き物のつながりに着目したモニタリング

次のようなモニタリングを行いながら必要な取組を検討していきます。

- ・ 植生保護柵における植生回復と昆虫相・鳥類相の変化
- ・ 草本植物と土壌の団粒化の関わり など



土に有機物が供給されると、ミミズなどの小動物や腐植・菌類の菌糸・微生物が作り出した粘着物質で土の粒子が結び付き、隙間のある団粒ができます。

図4 生き物の活動と土壌の団粒化

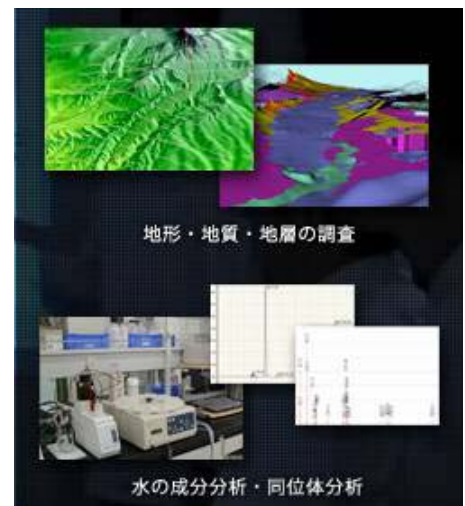


図3 サントリー水科学研究所